第31号　2019年2月

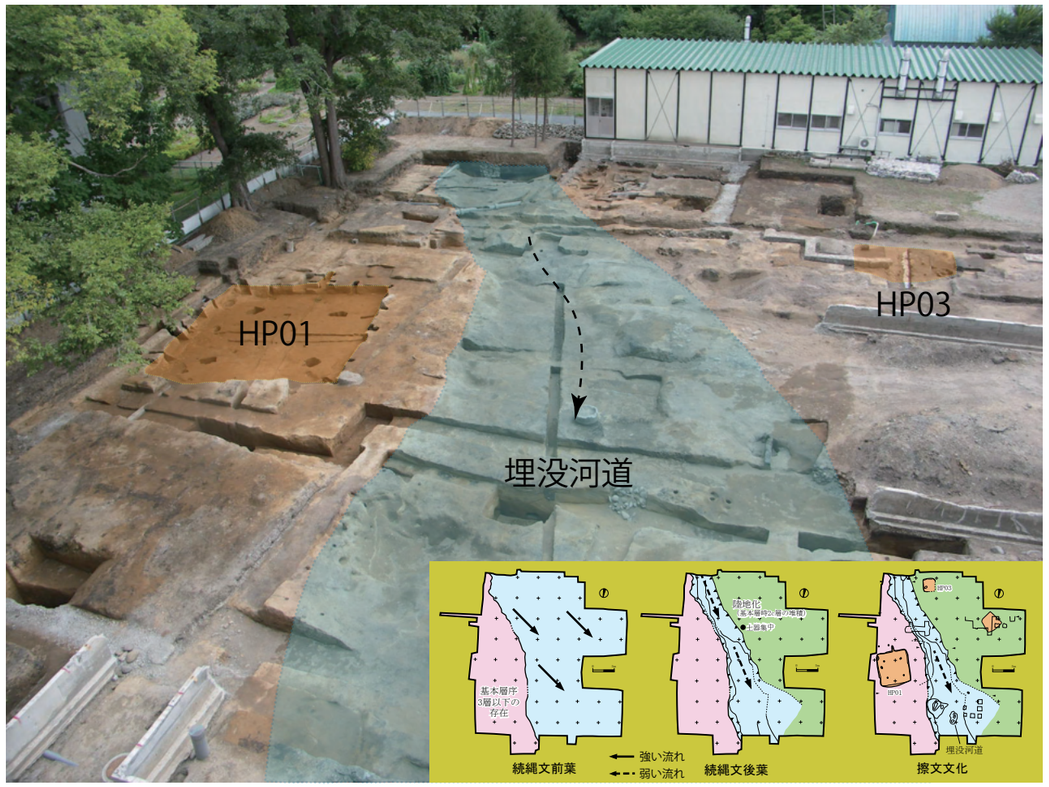
北海道大学 Hokkaido University
Archaeological Research Center News Letter

埋蔵文化財調査センター ニュースレター

特集　擦文文化の竪穴住居址

北大構内の遺跡では、平面四角形の竪穴でカマドが設置された形態の住居址が、擦文文化のサクシュコトニ川、セロンペツ川沿いの高まりで発見されています。東北地方北部から北海道にもたらされた技術と考えられているカマドおよびカマドのある竪穴住居址は、北海道の各地で約500年の間（約7世紀後半から約13世紀）に採用された居住形態です。このような竪穴住居が2棟～4棟で集落が形成されます。集落地は河川を遡上するサケ類の捕獲に適した場所を選定した傾向があります。

本特集では、擦文文化の竪穴住居址を取り上げます。



▲K39遺跡薬学部研究棟地点の第1号竪穴住居址（HP01），第3号竪穴住居址(HP03）の立地

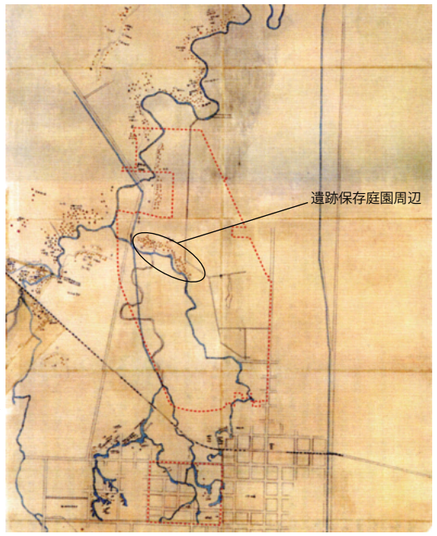
サクシュコトニ川中流域右岸に位置する薬学部研究棟地点では、河川に沿った微高地上に2基の竪穴住居址（HP01：擦文前期、HP03：擦文中期）が発見された。居住域の中央部付近には続縄文前葉頃までに埋まってしまった河道が湿潤な窪地となって存在していた（珪藻分析の結果より）。小河川寄りの湿潤な窪地を擁する微高地上に竪穴住居が構築された事例である。

高畑宜一と札幌キャンパスでみられる竪穴住居の窪地

高畑宜一（たかばたけよしかず）は、明治中期に北海道考古学をけん引した人物です。高畑は、現在では埋没河道となっている小河川の流路沿いに残された窪地（約700箇所）を克明に記録しました（右図）。それらの窪地は、擦文文化の竪穴住居の跡が土で埋まる途中の状態です。

1987（明治20）年、高畑は、明治学院普通学部（現明治学院大学）に入学し、島崎藤村と同級生で親交がありました。後に藤村は、高畑のことを「努力家」と随筆の中に記しています。

高畑が作成した「旧琴似川流域の竪穴住居跡分布図」からは、その人柄が伝わってきます。



高畑宜一による「旧琴似川流域の竪穴住居跡分布図（所蔵：札幌市埋蔵文化財センター）」▶
1894（明治 27）年ごろ和紙に墨汁でペン書きされた竪穴住居址分布図。右図では現北大構内の推定範囲を橙破線で加筆した。植物園周辺および精華亭付近の湧水を源とする河川（青線）沿いおよび現遺跡保存庭園周辺で点描写が集中している。
（右図：札幌市教育委員会「K39 遺跡第 6 次調査（第 1 分冊）」口絵 1-9 転載、加筆）

【お知らせ】第 11 回調査成果報告会の開催

平成30年度に当センターで実施した埋蔵文化財に関する調査研究の成果について、下記のとおり報告会を開催します。

日時：平成31（2019）年3月9日（土）13:00～15:15（予定）

会場：北海道大学学術交流会館第一会議室
（札幌市北区北8条西5丁目）

プログラム（予定）

12：30～　　開場

第１部　　調査報告
13：05～13：40　高倉　純（埋蔵文化財調査センター）
「2018（平成30）年度における調査概要」
13：40～14：15　守屋豊人（埋蔵文化財調査センター）
「K39遺跡総合研究棟（機械工学系）地点の調査成果」

14：15～14：30　休憩

第２部　　講演
14：30～15：15　鈴木琢也（北海道博物館）
「北海道出土の須恵器と古代物流交易」

15：15～15：30　質疑応答

※事前申し込み不要
　詳細は当センターホームページなどをご覧ください。

【お知らせ】第 11 回企画展示「平成 30 年度北海道大学埋蔵文化財調査センター調査成果速報展」の開催予定

平成30年度に実施した発掘調査などの速報展を平成31年2月1日（金）～平成31年3月11日（月）までの予定で開催します。

工学部周辺でおこなったK39遺跡総合研究棟（機械工学系）地点の発掘調査成果（擦文文化前期：8世紀）を中心に展示を行う予定です。

▲K39 遺跡総合研究棟（機械工学系）地点で確認された竪穴住居址の調査風景

編　集　後　記

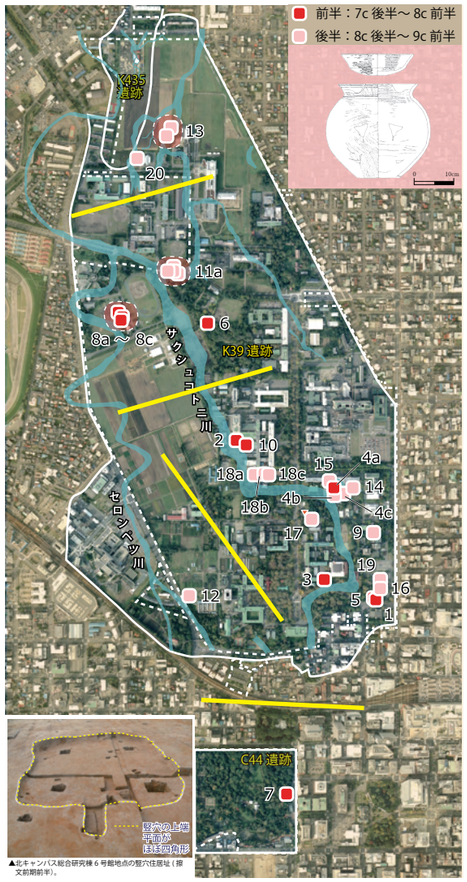
擦文文化の竪穴住居址を集成すると、河川沿いに住まいが作られたことがさらにわかりました。分布からとらえられる土地利用が分かった一方、その場所を選んだ理由は不明な点があります。今後の取り組んでいく課題の一つです。（守屋）

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター第31号

発行　：北海道大学埋蔵文化財調査センター
〒060-0811　札幌市北区北11条西7丁目
電話　：011-706-2671　FAX：011-706-2094
e-mail：hokudaimaibun@gmail.com
URL　：http://maibun.facility.hokudai.ac.jp/

擦文文化竪穴住居址の分布

擦文前期（7c 後半～ 9c 前半）



▲ 擦文前期では、竪穴が四角形の住居址の一辺にカマドが設置される。

擦文中期（9c 後半～ 11c 前半））

▲ 擦文中期では、竪穴が四角形の住居址の一辺にカマドが設置される。

擦文後期（11c 後半～ 13c）

▲ 擦文後期では、ほぼ円形の竪穴にカマドが設置される住居がみられる。

擦文前期の竪穴住居址の一覧

1	K39遺跡管理棟地点	HP01	擦文前期前半	北大構内の遺跡24
2	K39遺跡工学部・1棟間地点	第1号竪穴住居址	擦文前期前半	北大構内の遺跡12
3	K39遺跡附属図書館再生整備地点	HP01	擦文前期前半	北大構内の遺跡19
4a	K39遺跡薬学部ファーマサイエンス研究棟地点	H24HP04	擦文前期前半	北大構内の遺跡21
5	K39遺跡事務局本館屋外排水設備地点	HP01	擦文前期前半	北大構内の遺跡23
6	K39遺跡更衣室地点	HP01	擦文前期前半	北大構内の遺跡17
7	C44遺跡植物園収蔵庫地点	HP01	擦文前期前半	北大構内の遺跡18
8a	K39遺跡サークル会館地点	第1号竪穴	擦文前期前半	北大構内の遺跡1
8b	K39遺跡サークル会館地点	第2号竪穴	擦文前期前半	北大構内の遺跡1
8c	K39遺跡サークル会館地点	第3号竪穴	擦文前期前半	北大構内の遺跡1
9	K39遺跡地球科学研究科研究棟第2地点	第1号竪穴住居址	擦文前期前半	北大構内の遺跡12
10	K39遺跡総合研究棟（機械工学系）地点	HP03	擦文前期前半	未報告
4b	K39遺跡薬学部ファーマサイエンス研究棟地点	H24HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡21
4c	K39遺跡薬学部ファーマサイエンス研究棟地点	H24HP02	擦文前期後半	北大構内の遺跡21
11a	K39遺跡エルムトンネル地点	計4基	擦文前期後半	K39遺跡　第6次調査 札幌市教育委員会
12	K39遺跡農学部実験実習棟地点	HP04	擦文前期後半	北大構内の遺跡22
13a	K39遺跡国際科学イノベーション拠点施設地点	HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡22
13b	K39遺跡国際科学イノベーション拠点施設地点	HP02	擦文前期後半	北大構内の遺跡22
14	K39遺跡薬学部研究棟地点	HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡16
15	K39遺跡南キャンパス総合研究棟B棟北地点	HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡18
16	K39遺跡事務局非常用自家発電設備地点	HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡23
17	K39遺跡共同溝地点	3号住居址	擦文前期後半	北大構内の遺跡2
18a	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点	HP01	擦文前期後半	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書
18b	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点	HP02	擦文前期後半	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書
18c	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点	HP03	擦文前期後半	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書
19	K39遺跡本部裏地点	第1号竪穴住居址	擦文前期後半	北大構内の遺跡12
20	K39遺跡北キャンパス総合研究棟6号館地点	HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡19

擦文文化中期の竪穴住居址の一覧

11a	K39遺跡エルムトンネル地点	計7基	擦文中期前半	K39遺跡　第6次調査 札幌市教育委員会
12	K39遺跡農学部実験実習棟地点	HP03	擦文中期前半	北大構内の遺跡22
13	K39遺跡国際科学イノベーション拠点施設地点	HP03	擦文中期前半	北大構内の遺跡22
14	K39遺跡薬学部研究棟地点	HP03	擦文中期前半	北大構内の遺跡21
21	K39遺跡獣医学研究科大動物実験研究施設地点	HP01	擦文中期前半	北大構内の遺跡24
22a	K39遺跡恵迪寮地点	1号竪穴住居跡	擦文中期前半	サクシュコトニ川遺跡
22b	K39遺跡恵迪寮地点	2号竪穴住居跡	擦文中期前半	サクシュコトニ川遺跡
22c	K39遺跡恵迪寮地点	3号竪穴住居跡	擦文中期前半	サクシュコトニ川遺跡
22d	K39遺跡恵迪寮地点	4号竪穴住居跡	擦文中期前半	サクシュコトニ川遺跡
22e	K39遺跡恵迪寮地点	5号竪穴住居跡	擦文中期前半	サクシュコトニ川遺跡
23	K39遺跡弓道場地点	HP01	擦文中期後半	北大構内の遺跡15
11b	K39遺跡エルムトンネル地点	計33基	擦文中期後半	K39遺跡　第6次調査 札幌市教育委員会

擦文文化後期の竪穴住居址の一覧

11a	K39遺跡エルムトンネル地点	計6基	擦文後期前半	K39遺跡　第6次調査 札幌市教育委員会
12a	K39遺跡農学部実験実習棟地点	HP01	擦文後期前半	北大構内の遺跡22
12b	K39遺跡農学部実験実習棟地点	HP02	擦文後期前半	北大構内の遺跡22
24	K435遺跡南新川国際交流会館外構地点	HP01	擦文後期前半	北大構内の遺跡19
25	K435遺跡南新川独身寮地点	HP01	擦文後期前半	北大構内の遺跡16
26	C44遺跡温室地点	住居址	擦文後期前半	北大構内の遺跡3
11b	K39遺跡エルムトンネル地点	計5基	擦文後期後半	K39遺跡　第6次調査 札幌市教育委員会
27	K39遺跡バンデグラフ加速器室南地点	HP01	擦文後期後半	北大構内の遺跡13

北大構内の遺跡では、計27地点で117基の竪穴住居址が発見、調査されています。時期ごとにみると、擦文前期で30基、擦文中期で50基、擦文後期で19基がみられます（その他、時期不明18基）。擦文中期で竪穴住居址の累積数がピークに達した後、擦文後期で約半数に減少したと捉えられます。

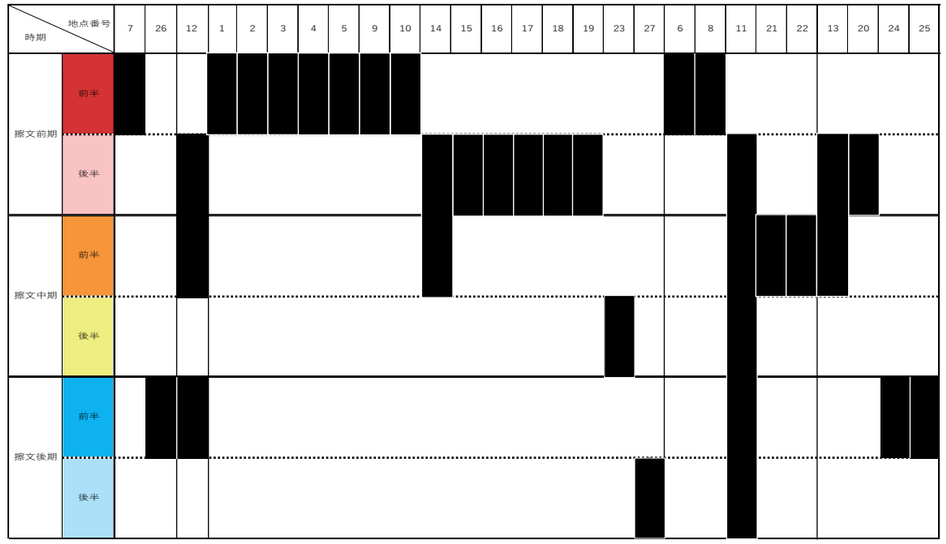
擦文前期から後期までの分布図によって、5つのエリアが想定できます。

上記の分布図で示した前期・中期・後期の細分は上野他（1999）、塚本（2002）による。

上野秀一他　1999 「擦文土器集成」『海峡と北の考古学シンポジウム・テーマ 2・3 資料集 II』日本考古学協会 1999 年度釧路大会実行委員会編　287-322 頁　日本考古学協会
塚本浩司　　2002 「擦文土器の編年と地域差について」東京大学考古学研究室研究紀要第 17 号　145-184 頁　東京大学考古学研究室

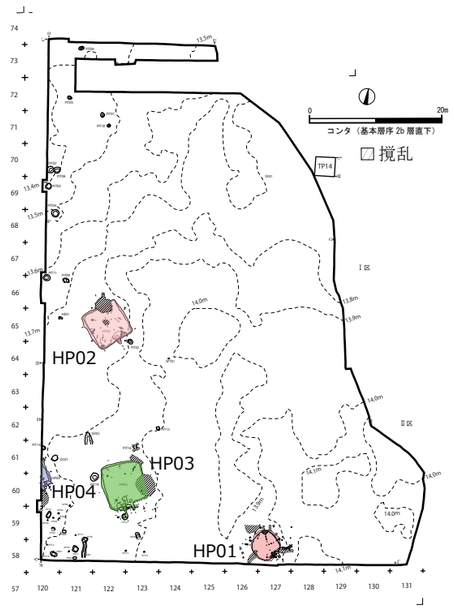
構内における竪穴住居の設営推移

擦文文化の前期後半以降、断続的に竪穴住居の営まれた地点がみられるようになります。エルムトンネル地点（番号11）では、サクシュコトニ川の氾濫によって形成された6つの文化層で竪穴住居址（総計55基）が見つかっています。農学部実験実習棟地点（番号12）では擦文中期後半で途絶えた竪穴住居の設営が、擦文文化後期前半にセロンペツ川の右岸高まりで再開されたと捉えられています。



▲ 構内の 27 地点で確認された竪穴住居址を、擦文前期～擦文後期に分けて、各地点における竪穴住居形成の推移を図示した。地点番号は左記竪穴住居址の一覧の数字と対応する。累積数の多い地点周辺では住みよい環境があったと推定する。

K39遺跡農学部実験実習棟地点



農学部実験実習棟地点では、第3号竪穴住居址（HP03）南東壁で2基のカマドが発見されました。同時に2基のカマドを住居で使用していたのではなく、壊れたカマドを埋めて、その傍らにカマドを設置し直したと確認できました。

この竪穴住居址は、改築（補修）して再利用されていたと考えられます。

▲ 農学部実験実習棟地点で発見された竪穴住居址
セロンペツ川右岸の高まり（標高約 14m）で、擦文文化前期後半（HP04）、擦文文化中期前半（HP03）、擦文文化後期前半（HP01、HP02）の住居設営があった。セロンペツ川は本地点の西側約 70mの位置に存在したと推定する。